校友時報

第59号
発行所
秋田県立秋田高等学校新聞部
電話 254番
編集人 小山静彦
印刷所 大館堂印刷所

足を踏み入れた新生徒会

後期生徒会

今年度後期生徒会正副委員長選挙は、委員長は十九日より三回にわたって再三選挙を行い、副委員長は九月三十一日に行われて委員長は石岡忠治君（2C）が選ばれ前期生徒会の後、約三ヶ月まで次ぐことになった。

九月十九日に行われた委員長選挙は立候補者一名で、選挙法により H.R. より一名づつ選出した五名の候補者を選出し、その中から三名の候補者を出し選挙の結果投票数の三分の二に満たなかったので再選挙、二回目も同様で難航の末三回目の選挙で石岡君が当選した。

当選　石岡　忠治　二三七票
次点　小玉　淳　二二九票
〃　大館　[illegible]

副委員長選挙は委員長落選した大の中より選挙で選び大橋かほるさん（2A）が当選したが、これは委員長と副委員長との立候補を別々に行うことになっているので結局無効となり、九月三十一日 H.R. より一名づつ選出した五名の候補者を選び選挙を行い智田斉君（2C）が圧倒的多数で当選した。

当選　智田　斉　二六九票
次点　石島　喜直　一一〇票

なお、正副委員長決定の後直ちに総務部が承認され企画部長は佐藤君、応援部長は石島君とそれぞれ承認された。

（写真説明……右石岡委員長　下左佐藤企画部長）

難航の末委員長に石岡忠治君（2C）

副委員長には智田斉君（2C）が當選

国体に本校選手大活躍す

―体操予想に叶い優勝―

去る十月二十日より十一月三日迄の五日間第二回秋田県の復興市を会場に第十回国民体育大会が行われた。

本校からも体操選手（鈴木清高、由村一郎、高藤千鶴、平川文夫、[illegible]）[illegible]坂敏雄君が秋田チームの大将としてそれぞれ秋田県の代表で出場し充分に実力を発揮し良い成績を収めた。

体操は作年修勝した東京の桐友高校を四三一七・五点、四二八・〇五点さ二千点の大差をもって四度目の優勝を遂げた。なお、今まで二十四年の第四回、二十七年の第七回で優勝し第十回と共に三度目の優勝は昭和二十二年の第一回、二十四年の第四回、二十七年の第七回で優勝し第十回と共に三度目の優勝は昭和二十二年の第一回、[illegible]場で第六決勝で福岡県代表と対戦し対〇〇のスコアで敗れた。

生徒会役員決る

新委員長決定の後、直ちに委員会が発出され委員会がそれぞれ承認し、各部長は次の通り。

▼総務部
企画部　佐藤博、神垣恵蓉
会計部　浦島滋悦、須田巳昌
風紀部　藤原光、沼川優子
厚生部　竹内斉、中川栄子
応援部　石島喜直、小山静彦
書記　原田正行、石田幸三
▼文化部
図書部　日沼貞夫、鈴木健
井潤部　佐藤博、大谷信
放送部　塚本信夫、桧森成光
科学部　昌田敏道、江川強宏
音楽部　田中保也、泉秀之
美術部　田村茂、岩松正蔵
新聞部　小山静彦、石田幸三
演劇部　大内義朗、渡辺光雄
▼運動部
硬　野手　石坂勝彦、伊藤政昭
軟　野手　千葉実夫、佐藤力美
庭　球　佐藤利夫、山田勇欽
籠　球　工藤敏、内田義彦
排　球　鈴木徳隆、大山政雄
卓　球　鬼上勝幸、石岡明元
競　技　佐藤強光、伊藤真喜
スキー　成田信弘、伊藤昇
柔　道　佐々木一郎、渡内爽光
剣　道　鬼上勝、柳谷雅
（上は部長、下は副部長）

本紙佳作に入選

去る十月一日から行われた新聞週間の催しとして、秋田県新聞社主催による学校新聞コンクールが行われた。これは昭和二十六年より催されており今回で五度目となっている。目的は学校新聞の育成向上を図る事などである。

本校からも「校友時報」五十五号、五十六号、五十七号、五十八号の四部を出品し「佳作」の席に収まった。参加校は十三校（高校の部）で県内高校の数は四十数校の高校からはその内の二十三、四校くらいは新聞部があるが、今回のコンクールでは余り応募されていない。過去の本校「校友時報」は入選し、佳作三回を受賞している。

第五回新聞コンクール入選、佳作受賞校は次の通り。

▼入選
「秋田新聞」秋田商校
「校友新聞」秋田中央高校
「秋商新聞」秋田商業高校
▼佳作
「金足新聞」金足農業高校
「中利高新聞」中利高校
「校友時報」能代高校

説論　委員長選挙に思う

◎選挙権を与えて棄てしたなら委員長選挙は二度目にのぼり副委員長選挙はこれまた二度目に本決り、しかしこれは今回はかりこうなのではない。こと三回は否この調子だったのである。そしてそれを見く思った人は、一人も居なかったろう。それなのに、いまだにその選挙がスムースに行われないのである。

何故かそその原因を考えて見るに、主原因の一つとして義務生徒の生徒会への無関心さである。選挙に於ける不出席は、それをはつきり証明している。これでは生徒会ひいては代代高校発展を阻む大きな癌となっている。

その機風こそ生徒の協力なくして生徒会の発展は望まれない。生徒会組織機関である所の生徒委員会であるが、常に召集されていると云うのはもっとらいうものであろうか生徒一般がかくの如き状態にある時、期待しうる所は只一つ生徒委員会の存在なのである。

生徒会不振の内部的崩壊の具体的事例として結合を要する問題は、生徒諸君が選挙の大切な事を忘れていると云う事である。選挙権、その諸君の一票一票が民意の表れであり、学校社会を良くする一票である。即ち、一般的な社会に於いては、なお一層重要な役目を持って来るのである。それを生徒諸君は承知のはずである。がしかし、実際の選挙は、三度も四度も足踏みし、その投票の中には相当数の無効投票が見られるのである。選挙は遊びではない。冗談半分でやったのでは被選者に対しても失礼である。選挙権の貴さというものをもう一度振り返って見る必要があるのではないだろうか。何も正副委員長の選挙だけではない例えばH.R.の役員選出も同じように云うことが出来る。T君を投票しようという気で皆んながそれに賛成し、T君が選任かどうかということも考えず、一斉に選出するこのような無時々聞かされることがある。このことからも物事をもっと良く考えるべきである。

◎選挙方法について

他に選挙権行の原因に、選挙方法の不適正さがある。不適正な選挙方法という大問題である。現在の選挙法について不満をもたぬ者は皆無に等しく殆ん居るであろう。不満をもたぬとしたらそれは無関心なものであろう。それで第一に選挙方法の改正を望むものである。例えば二回選挙しなくとも副委員長は委員長の任命で総会の承認を得る、とかして手間をはぶき、又は正副委員長は同時に立候補させ、同時に選挙するとか他に合理的な方法は幾らでもあろう。より良い選挙方法の採択こそ、選挙日常化の条件である。同時に、選挙管理委員会の強化を図るべきである。

選挙が強力に選挙を推進させるよう、新機構を採るとして強化する癖が大切であろう。

以上述べた二つの事は、新委員長等の手腕に期待するとしても、前述のものは、全義生徒の自覚に待つしかないのである。

最後に、被推薦者の態度は当然批判されるものである。演壇に上っての「辞退させて頂きます」の過口上は、推薦者の意をこなうものである。もっと生徒会に対する熱意が欲しい。

以上の外に原因は多いだろうが今まで述べたような事を良く考えて生徒会発展の基礎として、今後はスムースな選挙をする事が全義生徒の使命であろう。

衛生・宿直室を移動

かねて話しが持ち出されていた体操場改造、宿直室、衛生室の移動はこの程実現した。

体操場改造の修理と新しいフォーリングに変えた。

一方宿直室は今までは校舎のはずれであり不便を感じて定時制教務所へ移し、定時制教務室は衛生室に、衛生室は宿直室にそれぞれ改造し工事は終了した。

同窓会　舊校歌、校章復活の聲

本校同窓会（会長吉成栄二）では去る八月下旬、創立三十周年記念行事について打合せ中、校旗再調定について話し合ったが、その原図案について色々論議され、旧校歌にしたらどうかと云う出もあったが、現生徒の新制高校に改めた制章を採用しているからという意見が出、断って決った。又校歌は故藤村作、東大名誉教授の筆になるもので、新制高校、男女共学にしてから部分的に学校独自で筆を加え、原作の精神が薄らいで来ているのではないかという様な意見が各方面から高まって来た。

【大鳳同窓会副会長談】

昔の校歌は文武両道を表わし、見た感じも良く、我々としてはノスタルジアを感じているわけだ。校歌についても同じわけだしかし、復活しても用いるのは現生徒であるから、その方の意見を尊重する。

【加藤学校長談】

校歌も校章も現在のままで良いと思う。校章はペンに松のマークであるが「松」の字は校歌の中にも入っているので制定する必要はない。校歌作者を尊重する意味で旧校歌を用いてもよいが、現在の校歌は良く出来ているので藤村原作として今までのものを用いて行きたいと思う。

高新連県北支部発足す

高新連県役員の視察団だった、県北支部は去る十一月十三日、県北加盟校（大館鳳鳴高、鷹巣高、能代、能工、能芸）とテブザーバーとして米内沢高、北秋高校二名参加のもとに能代高校で結成された。会は、佐藤高新連副会長の経過説明に始まり、同校支長、新聞部顧問教官の挨拶があり、規約審議が終え、承認を得た役員を決定した。その後直ちに運営計画協議に入り、合同会議の行事を多く催す事等を話し合い、午後二時半頃閉会した。役員は次の通り。

県北支部長　佐藤潤（能芸）
同　副支部長　伊藤孝子（能北）
同　副支部長　加賀谷智雄（能工）
書記　森健治（能工）
会計　石田幸三（能芸）

能登（陸）君四一三点で一位

第三回模擬試験成績表、三十位まで発表になり、ベストファイブは次の通り。

▼一位　能登部（三年）四十三・五点
▼二位　藤原光（二年）三九三
▼三位　桑島利治（二年）三七六
▼四位　石岡忠治（二年）三七五
▼五位　杉崎孝雄（三年）三六八

三点

▼防火週間中には間に合わなかったが本校でも各日防火訓練を行った。先ず小林養長の講話があり、中学校火警間最終日には期待しとあった練習体制がそのまゝホンモノに応用しなければならなかったが大いに感銘を深めた▼又本校としては初めての試みであったが、近頃公共体がはでにやるし大火がひんぴんだ。火事に第三者という立場がないから迷惑な冷測り知れない。類焼した人はどうなるだろう。冬を真近にして一燃等を中心にするだけに誰れだけ被害を受けたり損害がかゝろう。私達は私達なりにできる事をしたりたい▼火事に被害の経験ある私達は知りすぎているはずだが忘れ易いのは次の教訓だ。そうそうストーブが配られたが大いに気をつけよう▼ストーブと云えば近頃随分寒くなった。天気らしい天気にはさっぱり日にかゝらない。今年は開ビヤク以来稀作の要因をなした今年の天候は逆に近年来の異変異常は終止符を打ち大いに楽波が出来ると予測されておったがどうも当りそうだ。▼体操場が改造されたが、ソーリング化・私達のせゝもの願いだったが今ようやく実現する。ふんばれば穴があき、すべればひっくり返し、町にひつかゝると云った体操場はみすぼらしい。早一まで二年目もかゝる。無れたい〜▼ボール一つあれば満足になる体操場なら今の所ノミの音だけ、それだけに室内スポーツ（？）が発ったん。野球よりし、バレーよりし、レスポックスいが、「公共の弱物」は無縁してあさぬようにしよう。▼十二月六日より三日間学期末試験が行われる。今回は試験日に日曜日が中に入るので「今回は少し楽になるな！」と期待がこう。学期末試験であるがゆえに各方をつくさなくてはいけない。落点しないようにつとめよう。

カメラとD.P.E
三羊堂写真材料店
能代市畠町中央

レコード新盤入荷!!
～カメラと楽器の特約店～
アサヒ楽器店
TEL 640

1956年用
日記入荷！
鴻文堂
TEL 121

★☆クリスマス☆★
洋子菓とケーキは……
エーワンベーカリー
TEL 156・1001番